

風俗画報の絵に見る明治三陸大海嘯※

—津波のこわさを知る—

A Study of Meiji-Sanriku Tsunami shown in Genre Pictures

門田 信一※²、今坂 一幸※³、山崎 廣志※⁴、安達 實※⁵

By Shin-ichi MONDA、kazuyuki IMASAKA、Hiroshi YAMAZAKI
and Makoto ADACHI

概要

平成23年3月、世界最大級マグニチュード9.0の東日本大震災が発生し、巨大津波が東北地方太平洋岸を襲い、大きな被害がでました。今から115年前、同じこの地に地震と津波が襲いました。この時はテレビもなく、写真も普及しておらず、描かれた絵のみが悲惨な状況を伝えました。その時の絵の一部を紹介します。

1. 風俗画報

明治の文明開化後、印刷技術が導入され、活字に触れることはできたが、明治20年代の新聞は、まだ活字のみであり、今日の新聞のような写真はなかった。一方欧米文化の影響の下に「画報」を名のる雑誌が登場したのは、明治22年に創刊の「風俗画報」からであろう。月刊の「風俗画報」は、博覧会・災害などに際して頻繁に特集号を刊行して、売れ行きを盛んにした。特に明治27、28年の「日清戦争図絵」や同29年「大海嘯被害録」（3冊）などは、多くの人々に絵図による情報を与えた。しかし明治後半よりこれまでの画筆者による石版画が、だんだんと写真版になり、大正5年に「風俗画報」

は廃刊になった。この画報は、わが国のグラフ雑誌の先駆けであり、重要な文献となりつつある。

今回はその中から数点ばかり津波の絵を紹介したい。現在はテレビに、より生々しい実況をみることができる。しかし明治の絵にはテレビにはない迫力や臨場感を得ることができる^{1)~4)}。

2. 明治三陸地震津波

1896年6月15日19時32分、岩手県宮古東方沖の日本海溝を震源地とするマグニチュード8.5の巨大地震発生し、北海道から東北太平洋側、特に三陸海岸には約40分後轟音とともに大津波が押し寄せ、波高は岩手県綾里38.2m、吉浜24.4mに達した。死者・行方不明約2万2千人、家屋流失全半壊1万戸以上、日本史上最大の津波被害となり、「明治三陸地震津波」と名づけられた^{5)~10)}。

以下、『風俗画報・臨時増刊大海嘯特集号118号』から、『同120号』のなかから数点を紹介する^{2)~4)}。

※ Keyword：明治期、災害史、三陸津波

※2 非会員 (株) アステック
〒924-0071 白山市徳光町2400-6

※3 非会員 中日本高速道路(株)

※4 非会員 中日本ハイウェイ・メンテナンス
北陸(株)

※5 正会員 博(工)(株) アステック



絵—1 岩手県釜石町（現釜石市）
県会議員某氏惨死



絵—2 岩手県大槌町（現同）
軍人歓迎会を襲った海嘯



絵—3 宮城県歌津村（現南三陸町）
婚礼の夜、海嘯に遭遇



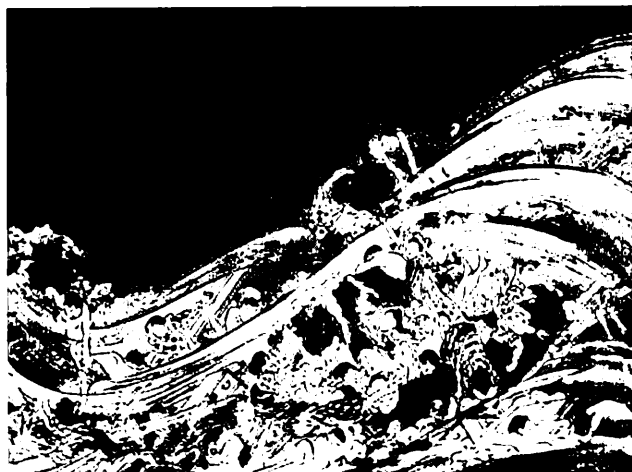
絵—4 宮城県十五浜村（現雄勝町）
看守監房を破りて囚徒を開放



絵—5 岩手県船越村（現山田町）
妻女衣服柱に挟まれ溺死を免れる



絵—6 宮城県志津川町（現同）
勇婦家族4人を救出



絵一7 岩手県重茂(おもえ)村 (現宮古市)
漂民を幽霊と為し救助せず



絵一8 岩手県広田村 (現陸前高田市)
雨戸板の老婆、漁夫に救出



絵一9 岩手県釜石町 (現釜石市)
臨時救済所



絵一10 岩手県久慈町 (現久慈市)
被害民寺中の仏旗で身を纏う



絵一11 岩手県唐丹(とうに)村 (現釜石市)
浜辺の惨況



絵一12 岩手県久慈町 (現久慈市)
遺族に溺死人を引き取らせる

3. おわりに

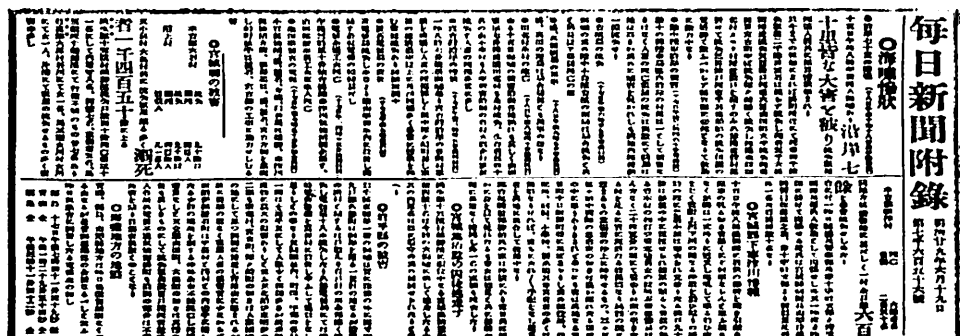
写真－1は当時（明治29年）の新聞で、写真はなく活字のみである。今は津波であるが当時は海嘯といった。

写真－2は、昭和期の同じ津波の様子である。写真が載るようになった。

本文をまとめるにあたり、北浦勝 金沢大学名誉教授、

宮島昌克 金沢大学教授からご指導をいただきました。厚くお礼申し上げます。

おわりに、明治と昭和期そして平成23年の東日本大震災と津波による犠牲者の御霊に祈りをささげます。



写真－1 明治三陸大海嘯を伝える毎日新聞（附録） 明治29年6月19日



写真－2 昭和三陸地震津波を伝える東京朝日新聞（号外） 昭和8年3月3～4日

参考文献

- 1) 『風俗画報 目次総覧』、書誌研究懇話会編、龍溪書舎、pp.1~13,49~52、1980。
- 2) 『風俗画報 第118号 海嘯被害録上編』、東陽堂、pp.1~35、1896。
- 3) 『風俗画報 第119号 海嘯被害録中編』、東陽堂、pp.1~34、1896。
- 4) 『風俗画報 第120号 海嘯被害録下編』、東陽堂、pp.1~36、1896。
- 5) 宇佐美龍夫：『新編 日本被害地震総覧』、東京大学出版会、pp.187~198、1996。
- 6) 渡辺偉夫：『日本被害津波総覧』、東京大学出版会、pp.100~104、1998。
- 7) 岩切信編：『日本災害史2 地震・津波』、日本図書センター、pp.42~45、2001。
- 8) 山下文男：『近代日本津波誌』、日本図書センター、pp.28~54、2008。
- 9) 首藤伸夫ほか：『津波の事典』、朝倉書店、pp.28~29、2007。
- 10) 『平成22年度版防災白書』、内閣府編、p.148、2010。